

国立国会図書館



国立国会図書館のしごと。

国立国会図書館のデータを使い尽くそうハッカソン

世界図書館紀行 シアトル公共図書館（中央図書館）

What's 書誌調整 ふたたび 第5回 テーマで探すために

2016.4

No. 660

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み/国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み/国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※児童書研究資料室は、システムメンテナンス等のため臨時休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00			
児童書研究資料室の資料請求受付	火～日曜日 9:30～16:30			
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00	13:00～16:30	

■見学のお申込み/国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

C O N T E N T S

- 02 約100年前のハンガリー憲法 ハンガリーの学者によるドイツ語の解説資料
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 04 国立国会図書館のしごと。
- 11 国立国会図書館のデータを使い尽くそうハッカソン
- 17 世界図書館紀行 シアトル公共図書館（中央図書館）
- 25 What's 書誌調整 ふたたび 第5回 テーマで探すために

10 館内スコープ

館の事務はお任せください

29 本屋にない本

○『占領軍のいた街 戦後横浜の出発 報告書』

30 お知らせ

- 平成28年度国立国会図書館職員採用試験
- 子どものためのこどもの日おたのしみ会
- 調査報告書『ライフサイエンスをめぐる諸課題』『ライフサイエンスのフロンティア—研究開発の動向と生命倫理—』を刊行しました
- 総合調査「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた諸課題」の成果をまとめました
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

約100年前のハンガリー憲法 ハンガリーの学者によるドイツ語の解説資料

山岡 規雄

18世紀後半の米国、フランスにおける憲法の制定に結実された近代立憲主義の思想は、その後欧州各国に広まった。しかし、憲法のありようは各国様々であり、単一の成文憲法典を有しない英国のような国もある。ハンガリーも第二次世界大戦前には、一時的な例外を除き、単一の成文憲法典を有していなかった。憲法典の不在は、その国の国制を知る上で大きな障害となる。したがって、第二次世界大戦前のハンガリーの国制を知るには、何らかの解説書の存在が不可欠となる。その解説書の一つが、これから紹介する *Ungarisches Verfassungsrecht* である。

本書は、ゲオルク・イエリネック (Georg Jellinek) やパウル・ラーバント (Paul Laband) からドイツ語圏の高名な公法学者が編集者となった "Das öffentliche Recht der Gegenwart" の第15巻として刊行された。著者は、ハンガリーの歴史家、マルツァリ・ヘンリク (Marczali Henrik) である (本書では、ドイツ風に Heinrich Marczali と表記されている)。マルツァリは、1856年ハンガリー西部の町マルツァリに生まれ、1870年にペスト (現在のブダペストの東岸に当たる) の大学の人文学部の聴講生となった。その後、外国の大学で学び、帰国後はブダペストのギムナジウム、大学で主に歴史学を教えた。

第1章では、1867年までのハンガリーの憲法史が概観される。ハンガリー史上初の成文の憲法的文書である、貴族の特権を保障した1222年の金印勅書 (Aranybulla) にふれられているほか、1514年にヴェルベーツィ・イシュトヴァーン (Werbőczy István) によって編纂された、ハンガリーの慣習法を集成した『三部書 (Tripartitum)』が、1848年ま

で憲法として通用したことが紹介されている。同書によれば、国王は支配し、統治するが、その統治権は、聖なる王冠とともに、「国民」(当時は貴族のみが「国民」を構成)により委任されたものとされている。

国制の基礎について解説する第2章は、聖なる王冠の解説から始まる。様々な著書が引用されているが、大体共通して主張されているのは、聖なる王冠とは、国家と同義であるということである。また、『三部書』における聖なる王冠の概念が、その後の封建的制度の廃止に伴い、変容を被っていることも紹介されている。その他、同章では、国の領域、市民権、国民の権利・義務、貴族制度、諸民族の権利、国語等についての解説が続く。

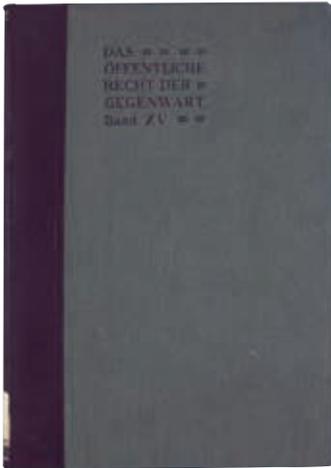
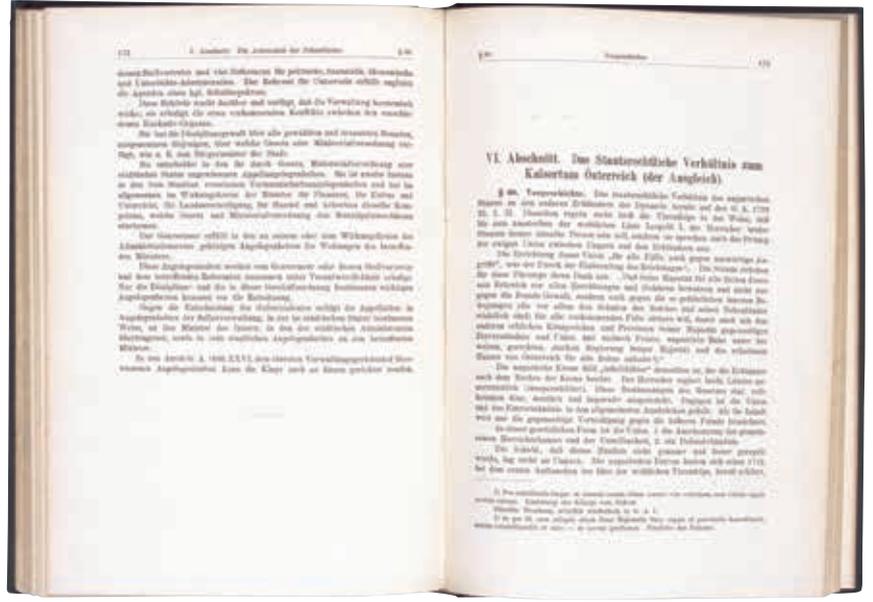
第3章では、国王、国会、政府、会計検査院、裁判所、地方自治体について、第4章では、信教の自由や教会の地位など宗教に関する問題、学校制度など教育に関する問題について、第5章では、当時ハンガリー王国に属していたクロアチア、スラヴォニア (現在のクロアチア共和国の東部)、フィウメ (現在のクロアチア共和国のリエカ) の自治について、第6章では、同君連合を形成していたオーストリア帝国との関係について書かれている。

2011年に制定されたハンガリーの新憲法は、聖なる王冠にふれている箇所があるなど、過去の憲法との連関を意識した内容になっている。これを受けて、聖なる王冠の位置付けについて憲法学的な議論が生じるといった事態も起きている。そうした意味で、ハンガリーの過去の憲法を概観する本書の意義は今日も大きいといえよう。

(やまおか のりお

調査及び立法考査局憲法課)

○本年3月に当館が刊行した『各国憲法集 (10) ハンガリー憲法』(基本情報シリーズ②)では、ハンガリーの新憲法の翻訳と解説を掲載しています。
<http://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/document/>



Ungarisches verfassungsrecht.
 Von Heinrich Marczali.
 (Das öffentliche Recht der Gegenwart ; Bd. 15)
 Tübingen : J.C.B. Mohr (P. Siebeck), 1911.
 xi, 234 p. ; 24 cm. <請求記号 160-62p>



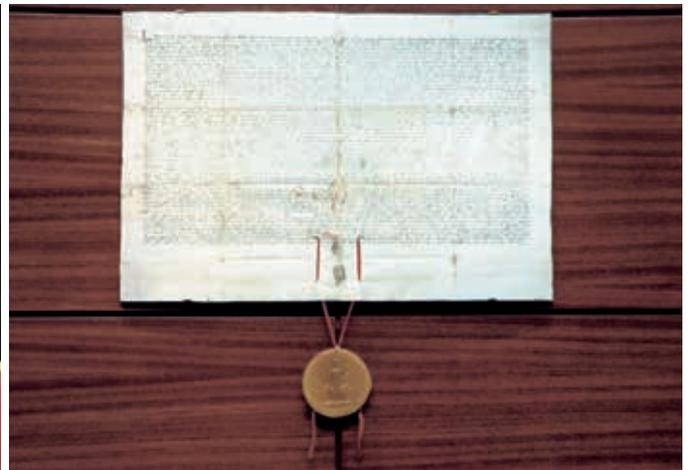
マルツアリ・ヘンリク
 Marczali Henrik

画像提供：
 ハンガリー国立博物館



聖なる王冠

Photo by Bogdan Ioan Stanciu. Hungarian Parliament Building
 - The Holy Crown (2008)



金印勅書

画像提供：ハンガリー憲法裁判所 (<http://www.mkab.hu/alkotmanybirosag/az-alkotmanybirosagrol/aranybulla>)

国立国会図書館の しごと。

国立国会図書館（NDL）は、立法府に属する「国会の図書館」であると同時に、日本で唯一の「国立の図書館」でもあります。

NDLではたらく人は、ふだんどのような「しごと」をしているのでしょうか。今号では、NDLを利用していてもなかなか見えにくいNDLの役割と、働く人の横顔を紹介します。

国会の活動を
支えています。

国会レファレンス課は、国会サービスの受付窓口および簡易な調査を担当する部署です。私は議員本人や議員事務所からの依頼調査の受付、いわば最前線で業務を行っています。

調査の依頼の大半は電話によるもので、まずは受話器を片手に全神経を集中させて依頼者の要望を聞き取ります。同時に、依頼者の問題意識は何か、回答期限は調査時間として充分かなどを瞬時に判断し、必要な場合は依頼者と相談しながら依頼内容を明確にしていきます。依頼内容は、国会質疑や国政課題に関係するあらゆる分野のものから、海外諸国のさまざまな法令・制度、さらには歴史や文学に関するものまで多岐にわたるため、日頃から幅広い分野にアンテナを張り、新聞・雑誌、インターネットなどを通じてさまざまな知識を蓄えておくことが必要です。

受け付けた依頼調査は、分野および難度によって、該当分野を担当する専門の各調査課または国会レファレンス課の調査担当係に回付します。多種多様な依頼に対して、どの調査課が担当するのが適当か、複数の調査課で分担・協力した方が良いかなどを判断しています。

特に国会会期中は依頼調査の件数が多く、受話器を置いた途端に次の電話が鳴ることも少なくありません。慌ただしい毎日ですが、依頼者と調査担当者をつなぐ重要な役割を担っていることを自覚し、責任感を持って業務に取り組んでいます。



調査の受付

調査及び立法考査局
国会レファレンス課
連絡調整係
H. 14 入館

調査及び立法考査局
外交防衛課
H.23 入館



アイスランド大学にて

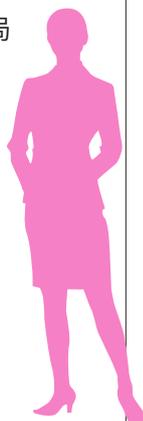
外交防衛課は、国会議員から受ける調査依頼のうち、外交関係や防衛政策、領土問題、国際法等を担当しています。課内は外交、防衛、国際法の3つの担当に分かれ、私は防衛担当で、主に米軍基地や自衛隊に関する調査を行っています。

調査及び立法考査局全体では、年間約4万件の調査依頼を扱っています。特に、担当分野に関わる法案が国会で審議される時は依頼が多く、調査報告書の作成や参考資料の提供のほか、面談や会合等で議員に直接説明することも少なくありません。

NDLでは、調査員の専門知識や調査スキルを高めるため、研修や出張の機会があります。私は平成26年には沖縄へ、平成27年にはドイツ、アイスランド、シンガポールへ出張する機会を得ました。いずれの出張でも、米軍基地を主な調査テーマとし、米軍スタッフ、政府または自治体職員、研究者等にインタビューをしたり、実際に基地を見学したりしました。普段は館内で資料に向き合っている仕事をしているので、さまざまな場所を訪れ、専門家と意見交換することは、調査員としての視野を広げる貴重な経験になりました。

調査依頼では、外国の事例や歴史的経緯を問われることが少なくありませんが、こうした調査は豊富な図書館資料を持つ当館の得意分野です。出張で得た知見も含め、依頼者に満足していただけるよう、図書館資料を駆使して回答を作成しています。図書館資料に精通し、専門知識・語学力のある調査員となることが私の目標です。

調査及び立法考査局
調査企画課 企画係
H.12 入館



調査企画課は、調査及び立法考査局が行うさまざまな業務とサービスの企画調整を担当しています。イベントの事務局としての仕事もそのひとつで、国会関係者を対象に、そのときどきに国政課題となっているテーマにつき、当局調査員が講師を務める「政策セミナー」を開催しています。常会中には、毎週セミナーを開催することもあり、講師との調整・広報等の準備、当日の運営に日々努めることとなります。

また、毎年1回、国内外の著名な専門家を講師・パネリストに招いて「国際政策セミナー」を開催しています。「国際政策セミナー」では、国会議員等向けのセミナーとともに、広く一般に公開するセミナーも行います。セミナーを開催するためには、海外の講師への打診にはじまる多くの準備が必要で、数か月間かけてさまざまな関係者と連絡を取り合い、細心の気配りをして進めます。セミナー当日は、講師の接遇を任されることもあり、神経をすり減らす場面もありますが、このような大規模なイベントに関わることができるのは、貴重な経験です。



国際政策セミナーの様子

収集書誌部国内資料課は、国内刊行の図書資料を収集し、整理を行う部署です。私は整理業務を担当しています。整理業務とは、「全国書誌」（日本国内で刊行されたあらゆる出版物の目録）を作成することです。具体的には、図書のタイトルや著者名、出版者といった情報を記録し、その図書に書かれているテーマ（主題）を、「件名」・「分類」という図書館独自の言葉や記号に置き換えて記録していきます（本号 p.25 参照）。納本されてきた資料を1冊1冊記録していく作業は、地道で根気のいる仕事ですが、日本で出版された膨大な出版物の中から、利用者が求める1冊を探し出すために、なくてはならないものです。また、私たちが作成した目録は国内のみならず海外でも利用されていますので、責任とやりがいを強く感じます。

目録作成の仕事は完全なデスク業務ですので、利用者とは接する機会は多くはありません。しかし個人的には、目録、特に分類に関連する仕事で、外部の図書館関係者と接する機会が多くなりました。そのひとつが日本図書館協会分類委員会の仕事です。分類委員会は、NDLを含む日本のほとんどの図書館で採用されている『日本十進分類法（NDC）』の維持管理にあたっています。平成26年12月には約20年ぶりに新訂10版が刊行され、私も分類委員として改訂作業に携わる機会に恵まれました。このように、NDCを使う側と作る側の双方を体験することができ、整理業務に対する視野が広がりました。



『日本十進分類法』



収集書誌部
国内資料課
整理第二係
H.17 入館



海外から届いた資料を確認します

収集書誌部
外国資料課
国際交換係
H.13 入館

外国資料課は、購入、寄贈のほか、「国際交換」によって外国刊行資料を収集し、それらを整理しています。

国際交換係では、世界各国にある「国際交換」の相手先機関に対して、日本の官庁資料等を送付し、代わりに相手先機関からその国の資料を送付してもらい、NDLの資料として収集します。収集する資料は、法令議会資料や官庁資料、日本に関する資料などで、非売品の資料や、購入による入手が難しいものも含まれます。

世界各国からさまざまな資料が送られてきますので、なじみのない文字を解読するのに苦労したり、資料の形態、言語、内容の違いによって、館内のどの資料室に送るべきか、悩んだりしながら作業をしています。また、当館から交換相手先に送付している国際交換用の資料の数に限りがあるため、資料の送付先を決める際に、複数の機関からリクエストがあると、調整に苦慮することもあります。

最近では、資料の電子化が進み、インターネット上で提供される資料が増えており、紙の資料の交換中止の連絡も増えています。今後の国際交換のありかたも考えながら仕事をしています。



電子資料が収められた書庫にて

関西館
電子図書館課 研究企画係
H.16 入館

図書館資料の中で、電子情報は年々数を増やし、果たす役割も大きくなっています。一方で、保存媒体の劣化やファイルフォーマットの旧式化など多くの課題も抱えており、その対策は急務となっています。

関西館電子図書館課研究企画係では、紙の資料と同様、これから電子情報の長期的な保存と利用を実現すべく調査研究を行っています。

電子情報と一口に言っても、その形態はさまざまです。紙の所蔵資料をデジタル化したデジタルデータや、定期的に収集しているウェブサイトの情報、CD やフロッピーディスクなどいわゆるパッケージ系資料と呼ばれるものなど幅広く、それぞれの特徴に合わせた対応が必要です。海外の動向にもアンテナを張りながら、関連部署と連携して検討を進めています。また、カセットテープやビデオテープ、レーザーディスクなどアナログ形式で記録された録音映像資料のデジタル化も調査研究の対象です。デジタル化の検討に際しては、実際に職員が事務室内の機器を用いてデジタル化が可能か調査することもあります。

係に異動した2年前は、大きすぎるテーマを前に頭を悩ませました。しかし現在では、目の前の課題を周囲の協力を得ながらひとつずつ解決していくことが、貴重な文化資源である電子情報を後世に伝えることにつながるのではないかと考えています。

様々な資料・情報を 文化的資産として収集し、 保存しています。



大量に届く資料を仕分けします



書誌を作成します

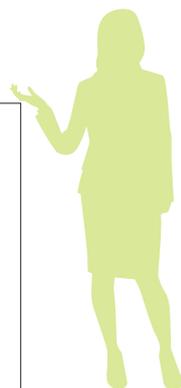


破損した資料を修復します

電子情報企画課では、電子図書館事業の企画や、それにと
なう関係団体との連絡・協力等を行っています。その中で私が主
に担当しているのは、資料のデジタル化に関する企画と調整です。

NDLでは資料を保存するためにデジタル化を進めており、権
利者団体や出版者団体など、関係の団体や機関と協議しながら、
デジタル化した資料を使ってどのような電子図書館サービスを行
うかを検討しています。

協議の間では、厳しいご意見をいただくこともありますが、
NDLがどのような役割を果たすことが求められているのかを直
接聞くことができる貴重な機会でもあります。これから始める新
しいサービスについて、どのようなサービスにすると権利者の利
益を損なわず、利用者に便利に使ってもらえるかを検討し、調整
していくのは難しいことですが、そうした検討を経て「図書館向
けデジタル化資料送信サービス」(<http://www.ndl.go.jp/jp/service/digital/>)などの新しいサービスが始まり、多くの方に利用してい
ただいているのを見ると、とてもやりがいを感じます。



電子情報部
電子情報企画課
電子情報企画係
H. 20 入館



デジタル化した資料を検証します



収集書誌部
逐次刊行物・特別資料課
索引係
H. 16 入館

逐次刊行物・特別資料課 索引係では、雑誌記事索引という記
事・論文のデータベースを作成し、管理・提供しています。雑誌
記事索引の目的は、雑誌記事や論文を探す人々が効率的に必要な
情報にたどりつくための手段を提供することです。NDL所蔵
の国内刊行雑誌のうち、約1万1千誌を対象に、1年に約38～
40万件の記事書誌データを作成しています。入力作業の大部分
は外部委託しており、職員は外部委託作業の監督や品質のチェッ
クを行っています。

そのほか、記事書誌データ作成の基盤として、記事書誌デー
タの入力ルールを検討や、雑誌記事索引の対象となる採録誌の選
定といった業務もあります。入力ルールの検討や採録誌の選定
では、利用者の利便性を向上させたいという思いと、予算や人手
との兼ね合いのなかでしばしば頭を悩ませています。

資料を簡便に利用し、
情報にアクセスできるよう、
利用しやすい環境・手段を
整備しています。



利用者からのレファレンスにこたえます



国際子ども図書館
企画協力課 広報係
H. 22 入館



メディアからの取材にも対応します

上野にある国際子ども図書館は、NDLの支部図書館という位置付けで、児童書を専門に扱っています。平成27年に新館アーチ棟が完成し、サービスのリニューアルが進行しており、私はその変化の激しいタイミングで企画協力課広報係に異動しました。国際子ども図書館の広報、利用案内等の作成、ホームページの管理、見学・取材対応、一般向けイベントの運営等が主な業務です。また、上野公園にあることから、美術館や博物館、動物園といった近隣の文化施設との連携によるイベント開催も積極的に行っています。

広報係の業務では、外部への情報発信役となる場面が多く、既存の施設・サービスについてももちろん、リニューアルにともなう変更点や、新たに開始するサービス等についても把握しておく必要があり、配属当初は目が回りそうな毎日でした。リニューアルの進捗にあわせ、一時休室する部屋について注意喚起をしたり、新たに展開するサービス内容を順次広報していく中で、どのような表現にすれば情報を正確に発信できるか、いつ発信すれば目をとめていただけるかなど、日々模索しながら業務に取り組んでいます。発信した情報に反応があると、業務に対する実感・嬉しさとともに、やりがいを感じます。

国内外の関係機関と 連携・協力しています。

関西館アジア情報課は、中国・韓国から中東・北アフリカに及ぶ地域を扱い、アジア情報室という専門室を運営しています。専門室とはいっても、関西館の大きな閲覧室の一区画にあり、平成26年4月にアジアカウンターが総合案内に統合されてからは、当課の職員もあらゆる分野の質問に対応しています。

アジア第二係は、中国関係の情報を担当しています。選書して入手した資料は、タイトル、出版情報や主題に応じた分類記号などの書誌情報をデータベースに入力しなければ利用してもらえません。私の係では、年間5,000冊程度の中国語図書の書誌情報入力を行います。地道で根気がいりますが、図書館の基礎でもある重要な作業です。

海外の方と接する機会も多くあります。たとえば、NDLは中国国家図書館との業務交流を定期的実施していますが、その際に通訳等の協力をすることもあります。前述の日常業務だけでなく、このような機会でも中国語の能力は欠かせません。ただ、誰もが最初から語学ができるわけではなく、館内で行われる語学研修のほか、有志による学習会や自学自習で語学力を高める努力をしています。

このほか、平成25年には、短期在外研究という枠組みで、1か月の期間でマレーシアや台湾などを訪問し、現地の図書館サービスや資料デジタル化の状況などを調査する機会を得ました。訪問機関の選定やアポ取りをすべて自分で行うのは大変でしたが、苦手な英語でのやり取りに苦労したことも含めて貴重な経験でした。



マレーシアの図書館にて

関西館 アジア情報課
アジア第二係
H. 18 入館

ここで紹介したのは国立国会図書館の役割、しごとの一部です。行政や司法に対するサービス、日本中の図書館へのサービスや支援など、ほかにも多くの大切な役割を果たしています。

なお、国立国会図書館ではたらきたい方へ向けた採用関連の情報については、p.30のお知らせ、またホームページの「採用情報」(<http://www.ndl.go.jp/jp/employ/>)をご覧ください。

館の事務はお任せください

桜のつぼみがふくらみ、日ごとに空気が温かくなる季節。生活に一つの節目を迎え、新しい職場や学校への期待に胸を躍らせていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。

総務部総務課総務係でも、この時期には部における「辞令交付」という大切な仕事を行います。春の人事異動で新しく総務部に配属された職員が、部長から辞令を受け取り、訓示をいただいで、仕事に取り組む心構えを新たにします。そのセッティングや進行を陰から支えていると、自分自身も改めて背筋がピンと伸びるような心地よい緊張感を覚えます。

人事異動期にはほかにも、異動する職員のPCや備品の管理、転入元・転出先部局課との連絡調整、メールや内線電話の設定など、こまごまとした事務がつきもの。新年度早々で気忙しい雰囲気の中ではありますが、配置換えになったばかりの職員が気持ちよく仕事を進められるよう、心配りして取り組みます。

ここまでですと、「仕事は部内と課内で完結!」と思われそうですが、当館の縁の下の力持ちとして、館内全体の事務も司っています。具体的には、全館的な会議の準備、東京本館と関西館間の資料等運送に係る事務、館内放送や他の部署との各種の連絡調整。館外に目を向けると、衆議院・参議院の事務局、各府省庁、全



館内放送の放送室

国の図書館とのやりとり、刊行物の受け渡しなど、頭と体の両方を使って多種多様な業務を行っています。昨年は、10年分以上の会議資料をまとめて検索できるようにしました。小さな工夫ですが、事務的な面から「こうしたらもっと便利」のアイデアを実現しています。

4月には外部の機関や各委託業者でも担当の方が変わることがあるので、改めてご挨拶をしてから仕事をスタート。日々飛び交う情報やものを適切に受け取り、処理するためには、相手方への気配りとコミュニケーションが不可欠です。一つ一つのやりとりは華やかさとは遠く、地道な作業の積み重ねですが、それらを滞りなく確実にこなすことで、国立国会図書館全館の業務が円滑に進んでいくよう、日々精進しています。

(総務課総務係 ショムコ)

国立国会図書館のデータを使い尽くそう



平成27年11月28日と29日の2日間、国立国会図書館（NDL）が提供するデータの利活用の促進を目的として、東京本館において「国立国会図書館のデータを使い尽くそうハッカソン」を開催しました。ここでは、当日の様子と、開発された試作品の一部を紹介します。



ハッカソンについて

「ハッカソン」とは、「ハック」と「マラソン」を掛け合わせた造語です。プログラマーやデザイナーなどさまざまな立場の人が集まって、あるテーマについて、限られた時間内で集中的にスマートフォンやパソコンのアプリケーションソフトウェア（アプリ）やウェブツール、デジタルコンテンツなどの試作品（プロトタイプ）を開発するイベントのことをいいます。NDLでは初めての試みで、当初の想定を超える数の参加者を迎えての開催となりました。

まずはチームビルディング

今回のハッカソンでは、「NDLサーチ」「Web NDL Authorities」「NDL東日本大震災アーカイブ」「国会会議録検索システム」「NDLラボサーチ」「オープンデータセット」等のデータの活用をテーマとしました。これらのデータを利用するに当たって、1日目のはじめにNDLの職員が、データの内容と、データを取得し活用するためのアプリケーション・プログラミング・インターフェース（API）の概要を紹介しました。続いて、同志社大学教授でNDL非常勤調査員の原田隆史氏から、平成27年2月に開催した「国立国会図書館のウェブページを使い尽くそうアイデアソン」の成果を紹介しました。その後、各テーブルの参加者がハッカソンで実現したいアイデアについて検討し、実現したいアイデアを自由に発表してもらったところ、10個ものアイデアが飛び出しました。そこで、この指とまれ式で、取り組みたいアイデアを参加者に選んでもらい、3～6人のチームが5つできました。

イベント概要



1日目 11月28日（土）
（午前）

国立国会図書館のデータとAPIの概要紹介
「国立国会図書館のウェブページを使い尽くそうアイデアソン」のアイデア紹介
チームビルディング

（午後）

アイデアの検討と試作品の開発
中間発表

2日目 29日（日）

試作品の開発
成果発表（デモンストレーション、意見交換、総評）



いよいよ開発

1日目の午後からは、いよいよ開発に取り組みました。ホワイトボードを使ってアイデアをより具体的に検討し、パソコンを使って実際にコード（プログラム）を書くこと等により開発を進めました。1日目の終わりには、中間発表として、各チームの試作品開発の進捗状況を報告しました。その後、会場では、限られた時間で可能な限り開発を進めようと、夜9時まで作業を続けたチームもありました。帰宅後に明け方まで作業を続けた人もいたようです。



2日目の朝、少し疲れ気味の顔も見え、心配もありましたが、徐々に完成形に近づく試作品に歓声を上げるチームもありました。最後の成果発表では、各チームとも、試作品のアイデアの背景と、その実現のために用いた技術を説明した後、完成した試作品のデモンストレーションを行い、活発な意見交換がなされました。

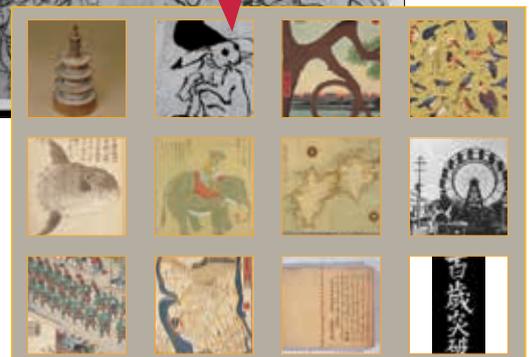


開発例：Digicolle Clipper

ここまで何度も「開発」という言葉を使ってきましたが、ハッカソンでの「開発」というのは、具体的にどのようなことをするのでしょう？国立国会図書館デジタルコレクション（デジコレ）の画像を、簡単に切り抜いて共有できるアプリ「Digicolle Clipper」を開発したチームの様子を例にとって紹介します。

□アイデアの背景

デジコレで利用できるデジタル化資料には、刊行年の古いものが多く、一見とっつきづらいようにも思えます。けれども、よく探してみると、今から見ても面白い絵や文章が含まれていますし、著作権保護期間が満了した資料であれば、申請などの手続き不要で利用することができます。そこで、デジコレの面白い画像を発見、共有できるようにして、もっと気軽に楽しみたい、というアイデアの元に4人のメンバーが集まりました。



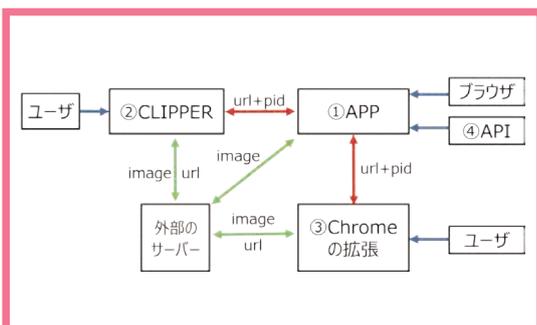
※アイデアのイメージ

□開発の環境の整備

4人のメンバーのうち3人は、アプリを動かす核となる仕組みを作る技術のあるエンジニアでした。チームができた1日目の午後、まずはこの3人のアイデアをもとに、インターネット上でプログラムをつなぎ合わせることができるソフトウェア開発用のツールや情報共有の無料ウェブサービスを利用して、開発環境を整えました。

□開発方針の検討

開発環境を整えた後は、開発方針を検討しました。「Digicolle Clipper」の利用方法としては、画像を切り取ってソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)に投稿することや、投稿された画像を見て、そこからデジコレにアクセスすることなどが想定されました。また、メンバーの1人が、ブラウザに表示された画像を切り取ることが可能なアプリを既に開発していたため、これをプロトタイプとして開発を進めることになりました。画像を切り取るアプリと、切り取った画像を蓄積するサーバと、デジコレのメタデータ(書誌情報)との関係を、ホワイトボードを使って図式化しながら検討しました。その結果、試作品として完成させるためには、切り取った画像をサーバに送る機能の追加と、サーバに保存した画像をリストなどの形式で並べて表示させる仕組みが必要だということで意見がまとまりました。



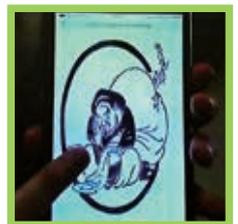
機能の概念図

□アプリと拡張機能の開発

メンバーの担当を決めた後、1日目の残りの時間で、アプリ本体と拡張機能の開発を進めました。2日目の朝は、まず、1日目の作業の進捗や、苦労している点などの情報共有をしました。その後、切り取った画像をSNSに投稿する機能を開発しました。午後になると、成果発表でのデモンストレーションに向けて、例示に使える画像を探し、実際にアプリで切り取ってサーバに蓄積していきました。あわせて、スマートフォン向けの表示機能を開発しました。

□デモンストレーション

成果発表では、PCやスマートフォンなど多様な利用シーンを想定した表示機能のデモンストレーションを行いました。



参加者からは、明日からでも使いたい、といった感想や、画像の見せ方はさらに改良できる可能性があるかもしれないという指摘がありました。また切り出して保存するだけでなく、画像の出典を示す書誌情報を合わせて保存できれば、その画像を含む資料へと利用者の興味や関心を広げるきっかけとなる、といった図書館ならではの指摘が寄せられるなど、活発な意見交換が行われました。メンバーの間では、デジコレに特化したアプリにして書誌情報の取得を可能にすることや、カテゴリ分けとその表示機能、表示件数の指定機能など、あったら嬉しい機能について話は尽きませんでした。

参加者インタビュー①

ハッカソンに参加された駒田さん（IT系企業勤務）に伺いました。

——今回のハッカソンに参加された動機を教えてください。

NDLでAPIを公開していることは知っていたのですが、具体的にどのような情報が取得できるのか調べる機会がなく、これまで利用していませんでした。また取得するためのアプリを開発するきっかけもなかったのですが、ちょうど良いタイミングと思って参加しました。

——実際に参加されて、いかがでしたか？

参加して、既存のAPIについてもよく理解できましたし、図書館の資料に関連する社会状況などについて知るきっかけになったことも大変良かったと思っています。

——ありがとうございます。それでは、開発した作品の概要を教えてください。

「のうほん！」というWebアプリを開発しました。これは文字どおり、NDLに書籍が納本されているかどうかを調査するためのアプリです。書名や出版者、ISBNなどの情報を入力すると、それがNDLに存在するかどうかを、書誌データ検索用のNDLサーチにアクセスして調査します。またそれだけですと、本当に未納本の書籍なのか、単に誤入力の情報なのか、判断できないため、他の公共図書館の目録情報や、出版情報を参照して確認しています。公共図書館の情報検索でもNDLサーチを利用しています。

——開発の中で苦労した点や面白かった点がありましたか？

ハッカソンではチームで考えた情報取得がうまくできたので、あまり苦労せずに済みました。APIが整備されていないとアプリで利用するのはなかなか難しいのですが、NDLの書誌データ検索用のAPIは利用しやすいと思います。

また、今回利用しなかったのですが、Web NDL Authoritiesが、SPARQLでクエリできる*のが興味深かったです。これまでAPIでは主に、URLの一部に検索条件を入れてデータを取得していましたが、SPARQLは文法が定義されているものなので、今後もっと普及して環境が整備されて、APIを使用するための敷居が下がることを期待しています。

——NDLのデータ提供に関して、ご期待やご要望がありましたら、教えてください。

他の機関や企業が保有するシステムとAPIを介した連携を強めて、様々な資料やデータがより便利に連携されるようになっていくといいなと思います。そのためにも、日々APIについて整備を続けていただくと大変嬉しいです。

（協力・駒田直樹さん）

*クエリとは、データベースやシステムに対して、データを検索してその検索結果を取得するという目的のために問い合わせること。SPARQLは、このような問い合わせのために作られたコンピュータ言語の一種。

試作品の紹介



のうほん！

国立国会図書館の所蔵状況を調べるウェブサービス。タイトルと出版者名、またはISBNのどちらかから国立国会図書館がその本を持っているかを調べることができ、結果をツイッターに自動投稿することもできる。



機能の概念図



Web NDL Authoritiesにも興味を持ってくださり嬉しいです。また、ご期待やご要望を届けていただくと担当者として励みになります！NDLではこれからもAPIの整備を続けていきたいと思っています。（事務局）

参加者インタビュー②

ハッカソンに参加された田島さん（大学院生／IT系企業勤務）に伺いました。

——今回のハッカソンに参加された動機を教えてください。

友人がデジコレで面白いものを発掘していたのをきっかけに、古典に興味を持ちました。ただ、膨大な資料を含むアーカイブに触れるのは敷居が高いため、気楽に使える面白いアプリがあると良いのではないかと考えていました。ハッカソンが公式で行われるならぜひ参加してみたいと思いました。

——実際に参加されて、いかがでしたか？

実際に参加してプロトタイプを作ったことで、参加者から様々なアイデアが出てきて、まさにハッカソンの醍醐味だと感じました。

——ありがとうございます。それでは、開発した作品の概要を教えてください。

「Digicolle Clipper」という、デジコレの画像の一部を切り取って共有できるサービスを開発しました。パソコン向けの切り取り用アプリとパソコン／スマートフォン向けのビューワ、それらを連携させるサーバを作りました。データはデジコレの画像そのものを用い、書誌情報などのリンクもさせたいと思っていましたが、時間内には実現することができませんでした。

——開発の中で苦労した点や面白かった点はありましたか？

画像を切り取るためにプロセス間通信など普段やらないことに挑戦し、面白さとともに難しさを感じました。また、チームメンバーが私の書いたプログラムのコードを現代的でメンテナンスが容易なコードに直してくれたのですが、それが非常にきれいなコードで驚きました。

——NDLのデータ提供に関して、ご期待やご要望がありましたら、教えてください。

デジコレに関しては、著作権保護期間が満了した、自由に利用できる画像を選んで、書誌や画像のデータを機械的に取得できる手段（API）を提供してほしいと思っています。サーバの負荷など、難しいこともあると思いますが、デジコレの画像は最も重要なオープンデータの一つになると思います。

（協力・田島逸郎さん）

試作品の紹介



Digicolle Clipper

「国立国会図書館デジタルコレクション」の画像を、簡単に切り抜いて共有できるアプリ。



まさにデジコレ活用のためのアプリをありがとうございます！ご期待に応えるべく、今後もオープンデータの提供を広げていきたいと思っています。

（事務局）

その他当日開発された試作品

○タンゴタンゴ

「NDLサーチ」の書誌データを使って、単語をグラフや音で感じて楽しむアプリ



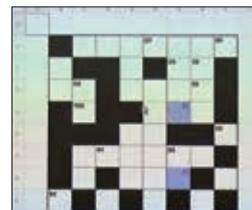
○コッカイポーカー

「国会会議録検索システム」のデータを使って、国会議員の活動を知るきっかけを作るソーシャルゲーム



○図書館の謎を追え！

「NDLサーチ」の書誌データを使って、図書館のイベントで利用できる、本に関するクロスワードパズルを自動生成するツール



※当日の成果（開発した試作品）の概要はNDLラボのページで紹介しています。 <http://lab.ndl.go.jp/cms/?q=hack2015>

おわりに

ハッカソンでは、ひとつのモノを作ることを目指して、アイデアの検討から設計・開発と、たくさんの作業を短い時間に集中して取り組んだため、気力と体力を必要とする2日間となりました。最後の成果発表では、ほかのチームが開発したアプリのデモンストレーションで歓声が上がったり、完成度を高めるための質問やアドバイスが飛び交ったりしました。実際に利用する立場になってほかのチームの発表を聞き、開発する立場から意見交換することで、刺激と活気に満ちた時間となり、参加者の間にはやり遂げたという満足感と、次へ向けてさらに改善したいという高揚が感じられました。参加者からは、APIを習得するよい機会になった、「国会会議録検索システム」に詳しくなることがで

きた、次も同じようなイベントがあれば参加したい、参加者同士が意見交換できる時間がもっとあるとよかった、といった感想が寄せられました。

事務局としては、これまで直接出会う機会の少なかったエンジニアの方とも交流することができましたし、NDLのデータは図書館という枠を越えて、幅広く活用される可能性があることを実感しました。今後も各種データの活用を進めていきたいと考えています。

(電子情報部電子情報流通課、

電子情報サービス課次世代システム開発研究室)





世界図書館紀行

シアトル公共図書館（中央図書館）

東川 梓

今回の世界図書館紀行では、筆者がワシントン大学に留学し、約2年シアトルに滞在したあいだ、頻りに利用していたシアトル公共図書館の中央図書館について紹介します。



シアトル公共図書館は、中央図書館と市内の26分館からなります。大人向けの本約361万点、子供向けの本約267万点、映像資料約369万点、デジタル資料約175万点、合わせて約1,174万点の資料を所蔵しています。来館者数が多く、シアトル市人口約61万人に対し、年間約647万人が訪れています。

シアトル中央図書館

不思議な形の中央図書館は、オランダを代表する建築家レム・コールハース氏（Rem Koolhaas）によって設計されました（写真1）。収蔵能力は145万冊で、現時点での蔵書数は128万冊を超えます。シアトルにはアムハラ語、アラビア語、広東語、日本語、朝鮮語、北京語、オロモ語、ロシア語、スペイン語、タガログ語、ベトナム語等を母国語とする住民が多くいるため、これらの言語の蔵書はもちろん、利用者をサポートするために各国語を話せるス

タッフもいます。年間約180万人も訪れる中央図書館は、シアトル有数の観光名所になっています。

中央図書館は4番街と5番街に面したダウンタウンの中心地に位置しており、周囲には裁判所やホテルなどが立ち並んでいます。ユニバーシティー・ストリート駅から徒歩5分ほどの距離で、バスや路面電車（リンク・ライト・レール）以外にも車でのアクセスが便利です。

1階

4番街に面した1階の入口の前には小さな庭園があり、地元を代表する芸術家ジョージ・ツタカワ（蔦川）氏の作品「知識の泉（The Fountain of Wisdom）」（写真2）の周りに植栽が配置され、来館者に安らぎを与える空間になっています。入口の右側には貸出・返却カウンターがあり、図書館ボランティアが利用者の対応をしています。

返却作業は自動返却処理システムを採用しており、館外に設置されている返却口（写真3）に本を置くと、壁や天井に設置されているベルトコンベアに載って流され、途中でRFID（ICタグ）が読みこまれて機械が返却処理します。瞬時に機械は次の予約が入っているかどうかを確認し、利用者が中央図書館で受取予定の場合は資料を請求記号順にブック・トラックに載せ、それ以外の館が指定されている場合は配送トラックに載せる大きなかごに流します。この自動返却処理システムでは、1時間に1,200冊を処理することができるそうです。貸出・返却カウンターの裏側には予約本の本棚（写真4）があり、利用者名のアルファベット順に何列にもわたって並べられています。利用者は自分の名前が書かれた紙が挟んである本を見つけ出し、自動貸出機で手続きを済ませます。利用者カードがあれば資料は50点（電子書籍は除く）まで、約3週間借りることができます。貸出しは基本的に無料ですが、利用者の要



望によって他の図書館から借りて入手した本に限っては、1点5ドルの費用を負担する必要があります。

右手奥にはラーニング・センター (Learning Center) があります。ここには各国語の本や雑誌が開架されており、日本語の雑誌や図書 (写真5) もあります。このセンターの楓の床約668平方メートルは、アン・ハミルトン氏 (Ann Hamilton) によってデザインされています。彼女はまず、国際色豊かな中央図書館の蔵書から11の異なる言語の本を抜き出し、それぞれの本の最初の文、合わせて556行を選びました。さらに各々の言語の文化的な背景を知る図書館員と利用者によって、踏まれても差し障りのない文が選ばれ、木の床に反転して彫られました (写真6)。こうしてできた立体的な床は、足、手、目で楽しめる作品になっており、写真を撮っている観光客の姿もよく目にします。書架の奥には英語や情報リテラシーを教えるクラスなどが開かれ

る研修室があります。この研修室では英語が母国語ではない (English as a Second Language : ESL) 市民に対して、シアトルでの生活に慣れるための支援を行っています。対象者は日常生活、仕事探し、大学受験などに向けて英語のサポートをする個人教師のセッション、毎週2回ずつ開かれる10週間の英語クラス、ロゼッタストーンなどの語学学習ソフトウェアなどを使って英語を無料で学ぶことができます。部屋の奥には小さな2つの個室があり、Skype用のコンピューターを1時間借りて母国と連絡をとることもできます。

1階入口の左側には子どもセンター (Children's Center) (写真7) があります。室内にはおはなし会専用の部屋 (写真8)、子ども用の端末、絵本、オーディオ・ブックなどがあります。壁には地元で活躍するマンディー・グリア氏 (Mandy Greer) による紙、布、針金などを駆使して作られた3点のオブ

ジェが飾られています。“Babe” (写真9)、“The Phoenix Fairy” (写真10)、“The Magic Grove” (写真11) という3つの作品は民話をイメージして作られています。子どもセンターは外部から直接入れない仕組みになっており、ラーニング・センターともガラスの壁で仕切られています。入口付近の警備カウンターには室内の監視カメラのモニターもあり、不審者が入る余地を与えていません。

1階の中央には275席の講堂 (写真12) が設けられています。この講堂では様々な催し物が毎日のように開催されており、筆者もカズオ・イシグロ氏の講演会や地元のバレエ団の発表などを観に行きました。人気の催し物のときには、講堂の後部、2階部分に150席を追加で拡張できるようになっています。



3階 リビング・ルーム

細長いエスカレーター（写真13）に乗って上がると、リビング・ルーム（Living Room）と呼ばれる3階に着きます。3階から10階までは、高さ約15メートルの広々とした吹き抜けになっています（写真14）。この階には5番街に面した出入口があり、1階同様、外側に小さな庭園（写真15）と貸出・返却カウンター（写真16）が設置されています。

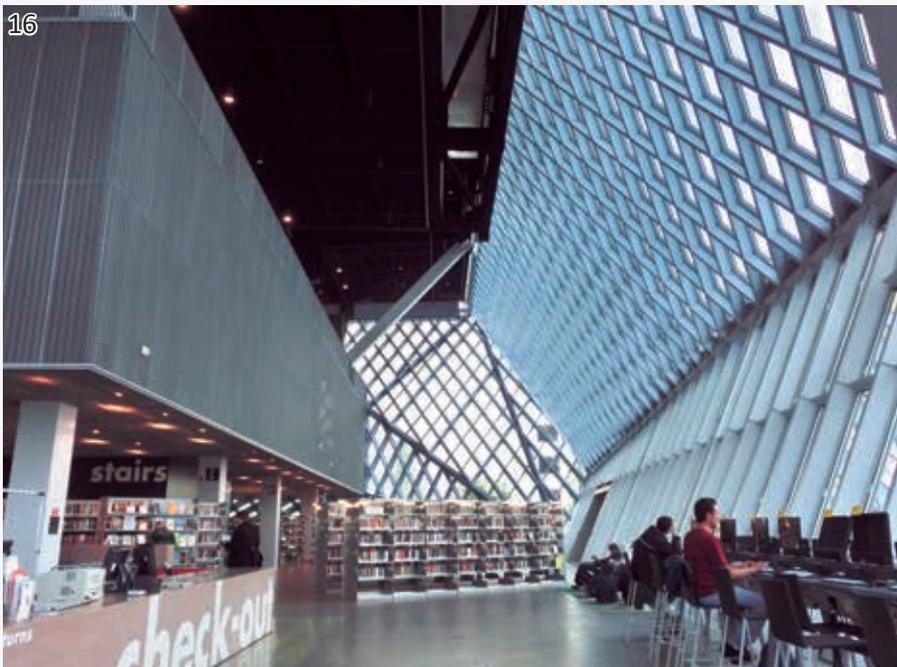
5番街からの入口付近にはシアトル公共図書館友の会のボランティアが運営するフレンド・ショップがあり、シアトル公共図書館グッズ、本に関連した雑貨、中古本を販売しています（写

真17）。図書館で行われる低所得者や移民の家族向けプログラム、就業支援講習会、お楽しみ映画会を開催する際の資金はこの売上金で賄われています。中央図書館の訪問者の約30%は観光客で、記念にお土産を購入する人が多いようです。

フレンド・ショップの隣には地元で人気のショコラティ・カフェ（Chocolati Café）があります（写真18）。名物のチョコレートやキャンディ以外にもコーヒー、ココア、サンドウィッチ、パンも販売しています。館内は原則飲食が禁じられていますが、この店の周辺の20席のみ飲食は許されています。本を読みながらコーヒーやココアを飲んだり、軽食を食べたりする市民の姿

をよく見かけます。

カフェの奥にはソファがあり、ゆったりとした広い空間になっています（写真19）。ソファ周囲の植物模様の絨毯は、5番街の植栽の写真を元にデザインされていて、外に見える植物と調和のとれたレイアウトとなっています。室内には観葉植物を植えた小さな庭園も造られています。カフェの近くにはビデオとDVDのコレクションが棚に並んでおり、利用者が目当ての作品を探しています。この周囲には雑誌、新聞、新刊本、小説の書架も並んでいます。棚に隣接するカウンター（写真20）では読書に関する相談を受け付けています。読みたい本のジャンルなどを伝えれば、図書館の蔵





書の中から何冊もお勧めの本を紹介してくれます。なお、オンラインでも「貴方の読みたい次の5冊 (Your next 5 books)」というサービス名で読書案内が行われており、過去に楽しんだ本やつまらなかった本を2,500文字以内で入力すると、お勧めの5冊のタイトルを電子メールで知らせてくれます。

読書相談カウンターの横には中高生向けのコーナー (Teen Center) があり、細長い一角の床が鮮やかなオレンジ色になっています (写真21)。ティーン向けの小説や雑誌以外にも漫画、グラフィック・ノベル、同人誌、オーディオ・ブックなどが所狭しと置かれています。この場所にある端末などの

設備は基本的に中高生しか利用することができません。この中高生コーナーはSafe Placeプログラムに参加しており、危険を感じて図書館を訪れた12～17歳の子どもを保護し、関係機関と協力して安全が確保できるように取り組んでいます。また中央図書館ではありませんが、市内の分館では宿題のお手伝いボランティアが常駐して、学生の宿題を手伝うサービスもあります。24時間オンラインでも受け付けており、図書館が閉まっても宿題を手伝ってもらうことができます。

さらに奥には、様々な障害を抱えた人々誰もが平等に図書館を利用するためのプログラム (Library Equal Ac-

cess Program : LEAP) 用のラボがあります。資料をスキャンすると自動的に読みあげる機器や、テキストを点字に自動変換するソフトウェアなどがインストールされているコンピューターが置かれています。LEAPでは障害者向けのイベント、例えば毎月行われる弱視者の読書クラブ、手話による読み聞かせ、小中高生向けの点字コンテストなどが開催されています。また7日以上前に申し込むと、図書館で開催するイベントのときに、通訳や介添え人を無料で手配することができます。



22



23



24



25

4階

4階を訪れた人はお洒落な現代アートの空間に飛び込んだような感覚を体験できます。廊下の床や壁は何種類かの鮮やかな赤色に塗られています（写真22,23）。この赤い色については利用者の間にも賛否両論あり、芸術性を評価する声もある一方、図書館という場所にふさわしくないという批判も多くあります。他の階とは違って書架が一切ないため、人通りが少なく、赤い天井には数多くの監視カメラが備え付けられており、定期的に警備員も見回り

に訪れます。なお、この階にある4つの会議室と2つのコンピューター・トレーニング室は、赤色ではなく灰色や茶色が使用されています。

この階にある丸い窓を覗き込むと（写真24）エスカレーターに乗って上ったり下ったりする人々の流れを見ることができ、逆にエスカレーターには覗いている姿が映像と共に映し出されます（写真25）。これはBraincastというアート作品です。

5階 ミキシング・チャンバー

4階から階段を上がってくると一瞬戸惑ってしまうぐらい、真っ黒な天井にアルミのような銀色の床の地味な空間になっています（写真26）。5階

はミキシング・チャンバー（Mixing Chamber）と呼ばれて、中央図書館の情報が集積された倉庫、いわば頭脳の中核とされています。中央図書館の400台の端末のうち、140台の端末が配置されている、コンピューター・ラボと呼ばれるスペースに、利用者が群がるようにして座っています（写真27）。調べ物のために検索をしている人からオンライン・ゲームをする人まで、様々な用途に端末が使用されています。これらのコンピューターにはマイクロソフト社のOfficeやアドビ社のIllustratorなどのソフトウェアがインストールされており、インターネットの利用のみならず、資料の作成等にも使用できます。コンピューターはオンライン予約制で、利用者カードを持っていれば、1日90分間まで使用できます。利用者カードを持っていない場合でもゲストとして30分間利用することが可能です。DVDコピー機やスキャナーも設置されています。プリンターも置かれており、レターサイズ白黒1枚なら15¢、カラーなら50¢です。



26



27

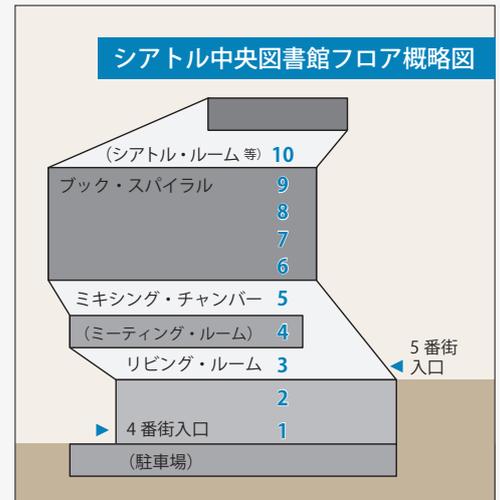
一角には総合レファレンス・カウンターもあり、ここで電話レファレンスなども受け付けています。カウンター背後の電光掲示板は館内のアートの一部として、過去1時間以内に貸し出された本のタイトルや分類番号が表示されます（写真28）。レファレンス・カウンターの向かい側には職業情報を提供するカウンターもあり、地域住民の雇用促進をサポートしています。

6階～9階 ブック・スパイラル

5階から10階まで長く一直線につながる蛍光黄色のエスカレーターに串刺しされた形で、ブック・スパイラル(Books Spiral)と呼ばれる部分が展開しています。ここはノンフィクションの蔵書が4階分にわたって連続的に開架されています（写真29-31）。床が緩やかに傾斜し、らせんを描くようにフロアとフロアが繋がっており、各階に置かれている書架への移動をスムーズに行うことができます。床にはデューイ十進分類法(DDC)の番号

が表示されており、探している本の分類さえ分かれば、容易に探すことができます。開館した当初は、この画期的な階層と書架の作りは、車いすの利用者も容易に利用できるバリアフリーの構造であると高い評価を受けていましたが、実際に利用していくと利用者からも司書達からも不満の声が出てきたそうです。毎日利用していると各書架への移動距離が長く感じられ、また、車椅子を使って各階を移動していくよりも、エレベーターの方が疲れないためです。結果として、この書架の作りには恩恵を受けることはないということになってしまったと、開館当時の館長デボラ・ジェイコブス氏(Deborah Jacobs)は中央図書館10周年記念講演会で残念そうに語っていました。

6階部分には雑誌、新聞、政府刊行物、7階にはDDCの000-300、8階には301-799、9階には800-999と自伝に該当する資料が開架されています。書架以外にも、6階には小さな会議室、7階には航空関連の資料の部屋、8階には2つの音楽練習室があります。





9階

家系図調査相談カウンター周囲には、4万点に上るアメリカの家系図に関する資料があります（写真32,33）。カウンターは午後1時から3時まで開いています。このカウンターは人気があり、午後3時から4時までは事前予約による30分間の専用相談を受け付けています。電話相談は受け付けていません。家系図担当専門司書によると中央図書館の人員削減のため、家系図

担当者は専任1人と補助スタッフ1人しかおらず、資料の選書や整理のため、カウンターに従事する時間は限られています。なお、中央図書館のカウンターで必ず司書がいるのは3階の読書案内カウンター、9階の家系図調査相談カウンター、10階のシアトル・ルームの3か所だけであり、他のカウンターはほとんどボランティアやアルバイトの人たちによって管理されています。

作家の部屋（Writers' Room）は、作家が中央図書館の蔵書を快適に利用して、執筆活動に専念してもらうために設けられた空間です（写真34）。ワシントン州のセンター・フォー・ザ・ブック（Center for the book）のプログラムの一環として運営されています。利用には条件があり、既に出版社との執筆契約を結んでいる人、もしくはシアトル公共図書館の蔵書を用いて記事や論文の執筆に真剣に取り組むことができる人に限られています。入室が許可される期間は6か月間で、他に希望者がいない場合はさらに6か月間継続することができます。専用の個室が用意されているわけではなく、使用後は次に利用する人のために机の上を片付ける必要があります。ロッカーは希望すれば利用者に貸し出され、パソコンなどの持ち物を保管しておくことができます。

10階

10階にはシアトル・ルーム（Seattle Room）があります。郷土史に関する質問を受け付けるカウンター（写真35）の奥にはガラスで覆われた郷土資料室（写真36）があり、金曜日以外の

午後を開室しています。学校や市役所等の公共団体の刊行物から地元紙まで、シアトルに関連する資料はこの部屋に保管されています。このコレクションには地元高校の卒業文集、3万枚を超える街の写真、ポール・ホリウチ氏、フランク・オカダ氏など地元を代表する芸術家の作品も含まれています。

シアトル・ルームの反対側には400席の広々とした明るい読書室（写真37）があります。天井は約12メートルと高く、一人一人の座るスペースに十分なゆとりがあり、周囲を気にせずにのんびりと読書を楽しむことができます。眼下にエリオット湾を望む景色が中央図書館の自慢で、観光客はカメラを持参して、ここからの景色を撮影しています。またエレベーター横で真下を見下ろすと、3階部分を見渡すことができます。

おわりに

筆者はシアトルに約2年滞在している間、シアトル公共図書館に足繁く通いました。中央館や分館の魅力的な建物内で提供される、豊富で多種多様なサービスに恩恵を受けました。そして、シアトル公共図書館を支援する地元の勢いと司書の熱意を強く感じました。変革し続けるシアトル公共図書館がどのような新しい図書館サービスを提供していくことになるのか、これからも注視していきたいと思います。

（ひがしがわ あづさ）

国際子ども図書館資料情報課

What's 書誌調整

第5回 テーマで探すために

ふたたび

カーネ



こんにちはワン、カーネ (CANE) です。前回、「Web NDLA」¹ にアクセスしたら、不思議な3人の妖精たちに出会ったので、妖精に関する本を読んでみようと思いました。そこで、近所の図書館へ行って、「妖精について書かれた本はどこにありますか？」って聞いてみたら、「388.3の棚を探してください」と言われました。数字を頼りにその棚へ行くと、たしかに、妖精に関連した本がたくさんありました。どうして数字ごとに、似たような内容の本が並んでいるのだろう？ 不思議に思ったので、先生に話したら、テーマから本を探す時に役立つ情報について、いろいろ教えてもらったワン！

先生 その図書館は「日本十進分類法」(NDC : Nippon Decimal Classification。以下、NDC) に基づいて、本を書架に並べているんですね。

カーネ にほんじっしんぶんるいほう・・・ですか？

先生 本のテーマを「主題」といいます。主題の同じもの同士を集め、それらを記号化して表したものが「分類」です。分類法にはいろいろありますが²、日本の公共図書館のほとんどは「NDC」を使っています³。「NDC」では、あらゆる知識があらかじめ十進法に基づいて体系化され、個々の概念に一つずつ分類番号があてがわれて、表になっています。分類を行う人は、個々の資料の内容に応じて、分類表の中から最も適した分類番号を選び出します。その番号順に資料を配架しているのです。同じ書架に同じような内容の資料が並んでいたのですよ。

300番台は社会科学分野、その中でも380番台は「風俗習慣・民俗学・民族学」、388は「伝説・民話」の分類です。コンマの後ろの3はどこの伝説・民話なのかを示す地理区分の数字で、「ヨーロッパ」を表しています。妖精は、ヨーロッパの伝説

から生まれたものなので、388.3に多く分類されているのです。

せっかくなので、もう一つ。主題から本を探すのに便利なデータとして、「件名」というものもあります。分類が主題を数字で表しているすると、件名は言葉で表しています。たとえば、妖精の本の書誌データには「妖精」という件名がついています。

カーネ う～ん、当たり前な気がするワン・・・。いちいち件名なんてつけなくても、タイトルで検索すれば、済むんじゃないかなあ？

先生 確かにタイトルは本の内容を表す場合が多いですが、主題を表す単語がタイトルに含まれない場合もあります。たとえば『庭のこびと"ノーム"から身を守る方法』⁴という本。「ノーム」という妖精の本ですが、タイトルに「妖精」という言葉は含まれません。タイトルに「妖精」を含む本を検索しても、この本を見つけることはできないけど、検索画面で件名の欄に「妖精」と入力して検索すると、見つけることができますよ。

カーネ 分類と件名、どちらも資料の内容から検索するのに役立つだね。でも、分類と件名、ふたつとも必要あるのかなあ？

先生 分類と件名は特徴が異なるのですよ。分類記号からは、隣接した主題の資料と一緒に検索することができます。妖精の本を探るとき手がかりにした 388.3 という分類記号で検索すれば、妖精だけでなく、吸血鬼・ユニコーンなど、ヨーロッパの伝説から生まれたさまざまな伝説上の生き物の資料も、検索結果画面に並びます。ヨーロッパを表す「3」を外した 388 なら、妖怪、怪物、怪獣など、地域を限定しない、さまざまな伝説上の存在の資料も含まれてきます。一方で、件名では、「妖精」という件名なら妖精、「妖怪」という件名なら妖怪など、特定の内容について書かれた本をピンポイントで検索します。

また、件名は観点の異なる資料と一緒に検索することができます。分類の場合、同じ妖怪を取り上げた本でも、伝説上の生き物として扱っている本と、妖怪を対象にオカルト研究した本

では分類記号が異なるため⁵、一つの分類記号から網羅的に検索することはできません。他方、件名は一律「妖怪」が付与されるので、まとめて検索することが可能です。

カーネ なるほど！ 一方の短所がもう一方の長所だったりするってことかあ。探している主題が、明確なのか、漠然としているのかなど、ケースによって分類と件名を使い分けたり、掛け合わせて使ったりすると、いろいろな検索ができそうダウン。ちょっと、分類と件名のイメージがわいてきました！

先生 多くの図書館では、1995年に刊行された「NDC」の新訂9版に基づいて、分類記号を付与してきました。2014年12月に、19年ぶりに新訂10版が刊行されました。

新しく生まれた主題に対応するため、288件の項目が新設されました。特に大幅な改訂がなされた分野は情報学とその関連領域で、分類の考え方が整理され、「ソーシャルメディア」「情報セキュ



分類：388.3

件名：妖精

分類：388.3

件名：妖怪

分類：147.6

件名：妖怪

隣接した主題のため、同じ分類記号で検索できる。

観点が異なるので分類記号は異なるが、同じ件名で検索できる。

※ 架空の本です

かわいい??



リティ」などの新項目も追加されました。

また、新訂9版の方針を引き継ぎ、「書誌分類」を目指した内容となっています。

カーネ 書誌分類、ですか？

先生 そう。先ほど、図書館で、教えられた番号の書架へ行ったら、同じような内容の本が固まって並んでいたと言っていましたね。このように、書架に並んでいる本を直接主題から探せる分類記号を「書架分類」といいます。一方、目録上で検索できるようにするための分類記号が「書誌分類」です。

十進分類法では、詳しい内容を表そうとすればするほど、分類記号の桁数は増えていきます。でも、「書架分類」では、特定の図書館における蔵書の配架場所を決めるのが目的なので、3～4桁程度にとどめておくのが一般的です。しかし、「書誌分類」なら、デジタル化された書誌データの検索キーとして役に立つように、桁数を制限せずに、「資料の内容に即した最も詳しい記号を付与する」⁶ことができます。

また、新訂10版では、資料が複数の主題を扱っている場合には、複数の分類を付与し、多面的な検索ができるようにすることが推奨されています。本の置き場所を決めるための「書架分類」では分類は基本一つしか付与しませんが、「書誌分類」として複数の分類を付与することで、内容のさまざまな側面から資料を検索する際に役立つようになります。

カーネ 書架に並んでいる本に付与されているような、単純な数字ではなく、検索キーとして役立つ複雑な分類記号が付与されていくことになるのですね。ところで、NDC新訂10版で「ソーシャルメディア」「情報セキュリティ」などの新項目が追加されたみたいだけど、件名にもそういう新しい言葉が使われるのですか？

先生 もちろんです。むしろ十進の番号体系がある分類表よりも、件名の方が新しい主題に柔軟に対応できるんですよ。なぜなら、件名標目は「件名標目表」という言葉のリストによって維持管理されていて、新しい主題を表す言葉を追加しやすいからです。

カーネ 言葉のリスト？ 辞書みたいなものかなあ。

先生 そのとおり。そして、件名標目表にもいろいろありますが⁷、国立国会図書館では「国立国会図書館件名標目表」(NDLSH: National Diet Library Subject Headings。以下、NDLSH)を使っています⁸。NDLSHの典拠データは「WebNDLA」で検索することができます⁹。

カーネ あれれ、典拠？ 前回と前々回に三兄弟が教えてくれた典拠データですか？

先生 そう。典拠データとは「資料の検索の手がかりとなる著者やキーワードを整理してまとめたデータ」でした¹⁰。覚えていますか？ 例えば「本」について書かれた本を探してみると、タイトルには「本」だけでなく「図書」「書籍」「書物」「Books」などさまざまな言葉が使われています。

WebNDLA上の「図書」の典拠データ

こういう同義語などをまとめておくことで、いくつものキーワードで検索しなおさなくても、検索画面の「件名」の欄に「図書」と入力すれば、網羅的に「本」について書かれた本を検索することができるんです。

カーネ そのしくみって、シェイクスピアが書いた本が、「シエクスピヤ」や「セーキスピーア」のように書かれていても、まとめて検索できたのと同じだワン！

先生 感心、感心。典拠次郎くんの話をも、よく覚えていましたね。このように、主題を表す言葉を統制することで、主題を効率的に検索できるようにするのが「件名典拠」です。また、Web NDLA で検索すると、ある言葉の上位概念（より広い概念）を表す「上位語」や反対の「下位語」、上下関係ではないが関連のある「関連語」をたどることで、言葉同士の関連を理解して、探している資料に、より適した件名を発見することもできます。

前回、典拠三郎くんから、Web NDLA で典拠データの蓄積が公開され、目録作り以外でも活用できるようになってきているという話がありましたね¹¹。NDLSH もさまざまな検索の場面で便利な言葉のリストとして、幅広い活用が期待されます¹²。

分類や件名を手がかりとすることで、書誌の検索にとどまらず、さまざまな情報を、横断的に、言語も超えて、検索することも可能になるかもしれません。それは、統制されたルールに則って、きちんと分類・件名が付与されて初めて可能になることです。個々の資料に書かれている主題が何であるかを把握して、精度の高い分類・件名を付与することは、人間にしかできないことです。コンピュータで膨大なデータを扱う時代だからこそ、一つ一つの手作業がより大事になっていくのだと思います。

カーネ 分類や件名って知れば知るほど面白いですね。こんど本を探すときに使ってみます。先生、今日もありがとうございました！

（収集書誌部国内資料課 境野 由美子）



分類、件名
便利だワン！！

- 1 国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス (Web NDL Authorities) <http://id.ndl.go.jp/auth/ndla>
- 2 「国立国会図書館分類表」、「デューイ十進分類法」といった「一般分類表」（あらゆる主題を分類することを目的とした分類体系で、広く公共図書館等で用いられる）のほか、主に専門図書館等で使用されている、各種専門資料に特化した「専門分類表」がある。
- 3 一般和図書については公共図書館の99%が採用している。もりきよし 原編, 日本図書館協会分類委員会 改訂『日本十進分類表. 1 (本表・補助表編)』日本図書館協会 2014 p.3
- 4 チャック・サンブチーノ『庭のこびと"ノーム"から身を守る方法』飛鳥新社 2013
- 5 伝説上の存在としての妖怪についての本は「388」、妖怪を対象にオカルト研究した本は「147.6」に分類される。
- 6 もりきよし 原編, 日本図書館協会分類委員会 改訂『日本十進分類表. 2 (相関索引・使用法編)』日本図書館協会 2014 p.270
- 7 「基本件名標目表」、「米国議会図書館件名標目表」などがある。
- 8 NDL-OPACの書誌詳細画面において、「非統制件名」と表記されているものは除く。
- 9 1991年の第5版までは冊子体で刊行していた。
- 10 本誌656 (2015年12月) 号 pp.18-21
- 11 本誌657 (2016年1月) 号 pp.14-16
- 12 活用の一例としては、NHK放送技術研究所による番組情報ネットワークアプリケーションの試作がある。NDLSHの典拠データが番組情報等と結び付けられることで、番組情報の整理、体系化が試みられている。有安香子「Web NDL Authoritiesの典拠データを用いた番組情報ネットワークアプリケーションの試作」『NDL書誌情報ニュースレター』2013年3号 (通号26号) http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_8301273_po_2013_3.pdf?contentNo=1#page=4

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

占領軍のいた街

戦後横浜の出発 報告書

横浜市ふるさと歴史財団近現代歴史資料課市史資料室担当 編
横浜市史資料室 刊
2014.3 103p 30cm <請求記号 GC76-L14>

横浜市には「横浜三塔」と呼ばれる、塔を持つ3つの歴史的建造物がある。これらは大正から昭和戦前にかけて、県庁、税関、公会堂として建てられたモダンな建物であり、優美な外観は現在でも魅力的である。

三塔の姿を求めて街を歩いてみると、ほかにも時の重みを感じさせる建物が点在することに気づく。かつて横浜は、関東大震災で大きな被害を受け、その約20年後の太平洋戦争で激しい空襲を受けた。つまり、「横浜三塔」などは苦難の時代をくぐり抜けてきたのである。

戦後は、横浜に連合国による占領統治の一大拠点が置かれたために、多くの施設や土地が接収されるというさらなる困難を経験した。軍事施設だけでなく、横浜のシンボルである港から百貨店、映画館までが対象となった接収は、復興の妨げになったといわれ、占領が終了した昭和27（1952）年以降もアメリカ軍によって使われ続けたものも多かった。

本書は、横浜市立中央図書館で開催された写真パネル展「占領軍のいた街－戦後横浜の出発」と講演の記録、および関連の調査資料を収めたものである¹。戦後数年の間に撮られた写真には、空襲の被害や人々の生活が明るさを取り戻していく様子などが記録されている。

最も目を引くのは、アメリカ軍関係の写真と、接収された施設・地域を示したリストおよび地図であ

る。軍の司令部などになった税関と公会堂や、街頭にアメリカ軍人のいる光景、接収された建物の英語表記の写真が印象的である。また、新たに建てられたアメリカ軍関係の住宅や教会、学校の様子も収め

られている。戦後70年を経た現在、それらの多くは痕跡さえも薄れているが、当時の市民は突然現れた「アメリカの街」を見てきつと占領の現実を痛感したことだろう。

娯楽施設もまた軍隊の駐留には重要なものであった。リストからは、映画館のほかには野球場やプール、多くの「クラブ」があったことが分かる。クラブのダンスホールなどでは、日本人のミュージシャンや学生がアメリカのポピュラー音楽やダンス音楽を演奏した。彼らの多くはそれまでアメリカの音楽になじんでいたわけではなかったが、この経験によって戦後の日本の歌謡曲やジャズの隆盛が築かれた。このような形で新しい文化が生み出されたことは興味深い。

本書には、写真や講演記録のほかに、接収を受けた関係者の手記や新聞記事なども引用されている。これらは、様々な角度から終戦後の横浜の姿を浮かび上がらせ、戦争と占領によって生じた街や港などの変化について考える手がかりを与えてくれる。

（総務部人事課 ^{はせがわ たかし} 長谷川 卓）

¹ 横浜市史資料室編『写真集「昭和の横浜」』、横浜の空襲を記録する会編『横浜の空襲と戦災』などを一部補完するものである。



お知らせ

■ 平成28年度 国立国会図書館 職員採用試験

平成28年度の職員採用試験を次のとおり実施します。

○職務内容

- 総合職試験・一般職試験（大卒程度試験）：調査業務・司書業務・一般事務等の館務
 - 総合職試験：政策の企画立案に係る高い能力を有するかどうかを重視して行う職員の採用試験
 - 一般職試験（大卒程度試験）：的確な事務処理に係る能力を有するかどうかを重視して行う職員の採用試験
- 施設設備専門職員採用試験（大卒程度試験）：施設設備（情報システム・ネットワーク等の設備を含む）の維持および管理等に関する業務、設備新営・改修工事に関する設計・監理業務、設備に関する技術の調査および研究ならびに当該専門的知識を必要とする業務

○勤務地

- 総合職試験・一般職試験（大卒程度試験）：東京都（東京本館・国際子ども図書館）・京都府（関西館）※転勤があります。
- 施設設備専門職員採用試験（大卒程度試験）：主として関西館総務課（関西館）※関西館内での異動および東京本館または国際子ども図書館での勤務もあり得ます。

○試験の概要（詳細は試験案内またはホームページで必ずご確認ください）

種類	大学卒業程度		
	総合職試験	一般職試験 （大卒程度試験）	施設設備専門職員採用試験 （大卒程度試験）
受験資格の概要※	昭和62年4月2日～平成8年4月1日生まれ（平成8年4月2日以降生まれでも、大学卒業または卒業見込みであれば可）	昭和62年4月2日～平成8年4月1日生まれ（平成8年4月2日以降生まれでも、大学・短大・高専卒業または卒業見込みであれば可）	昭和62年4月2日～平成8年4月1日生まれ（平成8年4月2日以降生まれでも、大学・短大・高専卒業または卒業見込みであれば可）
受付期間	平成28年4月1日（金）～4月21日（木）（消印有効）		
1次試験	平成28年5月21日（土）		
会場	1次試験は東京および京都で行います。2次試験以降は東京のみです。		

※日本の国籍をお持ちでない方、国会職員法第2条の規定により国会職員となることができない方は受験できません。

※申し込むことができる試験の種類は、1つのみです。（総合職試験には一般職試験（大卒程度試験）と併願できる総合職特例制度があります。）



お知らせ

○受験申込書および試験案内の入手方法

東京本館、関西館および国際子ども図書館で配布します。

郵便で請求される際は、封筒の表に「総合職試験・一般職試験（大卒程度試験）請求」、「施設設備専門職員採用試験（大卒程度試験）請求」のいずれかを朱書きし、返信用封筒（角型2号）を同封してください。返信用封筒にはあて先を明記し、切手（140円）を貼ってください（総合職試験と一般職試験（大卒程度試験）は共通の書式です）。

○問合せ・資料請求先

国立国会図書館 総務部 人事課 任用係

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1 電話 03 (3506) 3315 (直通)

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/employ/index.html>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 採用情報

お知らせ

■ 子どものための こどもの日 おたのしみ会

国際子ども図書館では、5月5日のこどもの日に、子どものためのおたのしみ会を開催します。

○日 時 5月5日（祝）13：30～、15：00～（各回40分程度）

○会 場 国際子ども図書館 レンガ棟1階 おはなしのへや

※当日、時間までに子どものへやにお越しください。

○内 容 おはなし（ストーリーテリング）、大型絵本の読み聞かせなど

○対 象 4歳以上の子ども 各回30名程度（先着順、予約不要）

※子ども向けのイベントです。

○問合せ先

国立国会図書館国際子ども図書館 児童サービス課 児童サービス運営係

電話 03（3827）2067



お知らせ

■ 調査報告書

『ライフサイエンスをめぐる 諸課題』

『ライフサイエンスのフロン ティア—研究開発の動向と 生命倫理—』

を刊行しました



調査及び立法考査局が平成27年度に行った科学技術に関する調査プロジェクト「ライフサイエンスのフロンティア—研究開発の動向と生命倫理—」の成果として、3月17日に『ライフサイエンスをめぐる諸課題』と『ライフサイエンスのフロンティア—研究開発の動向と生命倫理—』を刊行しました。

『ライフサイエンスをめぐる諸課題』は、ライフサイエンス分野の現状と課題を、生命倫理、バイオセキュリティ、医療政策、研究医育成などの幅広い視点から俯瞰的に整理し、取りまとめたものです。『ライフサイエンスのフロンティア—研究開発の動向と生命倫理—』では、医療と創薬に焦点を絞り、日本および諸外国における研究開発体制と動向のほか、関連の政策、医薬品・医療機器産業、がん研究、脳科学、再生医療・幹細胞研究、ゲノム医療などのトピックを取り上げています。

これらの報告書を含め、国立国会図書館が国政審議の参考資料として作成した資料は、ホームページで全文をご覧になれます。ご活用ください。

○国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>国会関連情報>『調査資料』>2016年刊行分

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/document/2016/index.html>

お知らせ

■ 総合調査「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた諸課題」の成果をまとめました

調査及び立法考査局は、重要な国政課題について局内横断的にプロジェクト・チームを編成し、多様な視点で調査・分析を行う「総合調査」を実施しています。

このたび、平成27年に行った総合調査の成果として、『レファレンス』2月号に、特集「総合調査 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた諸課題」を掲載しました。

オリンピック・パラリンピックには、経済への影響、大会予算、外交、地域スポーツ・障害者スポーツの振興政策など、他のスポーツ大会では大きく扱われないような様々な論点があり、国や社会の在り方とのかかわりが論じられることも少なくありません。今回の総合調査では、有識者の方々からのヒアリングも含め多様な角度から調査を行い、7編の論文にまとめました。

東京大会まであと4年余となりましたが、オリンピック・パラリンピックについての考えを深める上でご参考になれば幸いです。

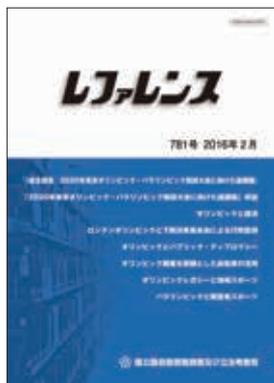
※全文をホームページでご覧になれます。

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>国会関連情報>『レファレンス』>2016年刊行分

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/refer/2016/index.html>

■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 781号 A4 149頁 月刊 1,000円(税別) 発売 日本図書館協会
<総合調査 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた諸課題>

「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた諸課題」序論

オリンピックと経済

ロンドンオリンピックと下院決算委員会による行政監視

オリンピックとパブリック・ディプロマシー—東京オリンピックに向けた戦略的広報外交—

オリンピック開催を契機とした自転車の活用

オリンピックレガシーと地域スポーツ

パラリンピックと障害者スポーツ—現状と課題—

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03(3523)0812

CONTENTS

- 02 The Hungarian Constitution of a century ago: a commentary in German by a Hungarian scholar
<Book of the month - from NDL collections>
- 04 Work of the NDL
- 11 Hackathon “Let’s make maximum use of the NDL’s data”
- 17 Travel writing on world libraries: The Seattle Public Library (Central Library)
- 25 What’s bibliographic control? Revisited (5): Searching by topic
- 10 <Tidbits of information on NDL>
Leave the NDL’s clerical business to us
- 29 <Books not commercially available>
○ *Senryōgun no ita machi: Sengo Yokohama no shuppatsu: Hōkokusho*
- 30 <Announcement>
○ Announcement of the employment examinations for FY 2016
○ Special event for children on Children’s Day
○ Publication of research reports: “Aspects in Life Sciences” and “Frontiers in Life Sciences: Progress and Ethical Issues in Research and Development”
○ Publication of interdisciplinary research report : “Issues of the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games”
○ Book notice - publications from NDL

国立国会図書館月報

平成 28 年 4 月号 (No.660)

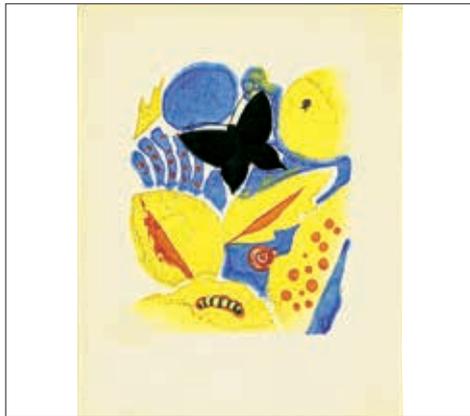
平成 28 年 4 月 1 日 発行

発行所 国立国会図書館
編集者 小寺正一
責任者

印刷所 株式会社 正文社印刷所

〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
F A X 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



『季節標』から版画「蟲」

恩地孝四郎 著 アオイ書房 昭和10（1935）年
1冊 37cm

「国立国会図書館デジタルコレクション」でご覧になれます
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8311658/27>

国立国会図書館月報

平成28年4月1日発行（毎月1回1日発行）
（4月号通巻660号）